

時	番組内容
6	まちの話題 ホットニュース
7	宇陀市政なう お知らせ（静止画）
8	お知らせ（音声付） からだほぐしストレッチ
9	まちの話題 ホットニュース
10	宇陀市政なう お知らせ（静止画）
11	お知らせ（音声付） うきうきダンス
0	まちの話題 ホットニュース
1	宇陀市政なう お知らせ（静止画）
2	お知らせ（音声付） ウェルネスうだ体操
3	お知らせ（静止画）
4	池谷直樹講演会
4	いきいき歯ッピー体操
5	お知らせ（静止画） お知らせ（音声付）
6	まちの話題 ホットニュース
7	宇陀市政なう お知らせ（静止画）
8	うきうきダンス ウェルネスうだ体操
9	まちの話題 ホットニュース
10	宇陀市政なう お知らせ（静止画）
11	まちの話題 ホットニュース
0	宇陀市政なう お知らせ（静止画）



令和3年9月1日現在
※（ ）内は前月比

総数	28,745人 (-30)
男	13,800人 (-8)
女	14,945人 (-22)
世帯数	12,874世帯 (5)

自主放送スタジオ

（☎／IP ☎ 82・2497）

※番組内容および、放送時間は予告なく変更される場合があります。ご了承ください。

番組内容	1日～10日	11日～20日	21日～末日
ホットニュース	○池谷直樹さん 市内小学校訪問 ○ハープ入門	○ミニ講演「戦争と アイヌ民族」 ○榛原北保育園運動 参観	○菟田野中学校秋季体育 大会
講演会	○池谷直樹講演会「夢、高く跳ぶためには」		
宇陀市政なう	市の取り組みや行政情報		
	○野菜たっぷりクッキン グ：豚ヒレ肉のマリネ風 ○うだし なかよし献立 ○手話への扉 第4回	○図書館 今月のおすすめ ○手話への扉 第5回	○うだし なかよし献立 ○UDA UDA ENGLISH ○手話への扉 第6回
まちの話題	○宇陀おもちゃ病院 ○草木染め「夏の野に遊ぶ」	○宇陀の歴史再発見 「菟田野へ里帰り」 特別陳列	○文祢麻呂將軍祭
産業情報	○ごちそーさま!!		





From: ペス
(大宇陀中・菟田野中)

皆さん、こんにちは！
秋になりましたね。私は暑い夏より涼しい秋のほうが好きです。皆さんはどうでしょうか？
10月31日はハロウィンです。ハロウィンはAll Saint’ s Day(諸聖人の日)と All Soul’s Day(死者の日)の前日です。これはキリスト教徒が聖人となくなった先祖を祝福する日です。この時期は生と死の世界の境界が薄いため、ハロウィンに悪霊がこの世にやってくると言われています。昔の人は悪霊から身を隠すために仮装しました。そして、カボチャの中身をくりぬいて「ジャック・オー・ランタン」を作って魔よけとして家の入り口などに置きました。今もこの伝統は続いていて、仮装の風景は日本でも見かけますね。



ウッピー編集員が、
時どきの想いを綴ります

今月の表紙は毎年恒例のわが家のアイドル。今年は今まで最多の99人もの元気な笑顔で表紙がいっぱいになりました。こどもの笑顔は見るこちらにも元気になります。応募いただいた皆さんありがとうございます。▼特集は小中学校の取り組みを取り上げましたが、我々の時から変わっているのは当然ですが、私の子どもたちの時から大きく変わっててびっくり。▼しかし親目線でこんな頃もあったなあと懐かしく見ていました。そんなうちの子どもたちももうすぐ社会人。早く親離れしてほしいです。いや、子離れしなければ・・・(f)





権コーナー

生まれつきの特性

発達障害は、生まれつきみられる脳の働き方の違いにより、幼児の頃から行動面や情緒面に特徴がある状態です。そのため、養育者が育児に悩みを抱えたり、子どもが生きづらさを感じたりすることもあります。

発達障害があっても、本人の家族・周囲の人が特性をよく理解し、その人に合ったやり方で日常生活や学校・職場での過ごし方を工夫することできれば、持っている本来の力がしっかり生かされるようになります。

発達障害には、自閉症スペクトラム症、注意欠如多動症（ADHD）、学習症（学習障害）、チック症、吃音などがふくまれます。これらは、生

まれつき脳の働き方に違いがあるという点が共通しています。同じ障害名でも特性の現れ方が違ったり、いくつかの発達障害を併せ持ったりすることもあります。

発達障害がある人は、コミュニケーションや対人関係をつくるのが苦手です。また、その行動や態度は「自分勝手」とか「変わった人」「困った人」と誤解され、敬遠されることが少なくありません。大事なことは、その人がどんなことができる、何が苦手なのか、どんな魅力があるのかといった「その人」に目を向けることです。そして、その人その人に合った支援があれば、だれもが自分らしく、生きていけるのではないのでしょうか。



村君東人、銅鐸を発見する

銅鐸は、弥生時代に農耕祭祀のときに使われたと考えられています。これまでに約500点の銅鐸が発見されており、振子（舌）とセツトとなつて出土しているものがあります。このことから、銅鐸の内側に振子を吊して鳴らした「ベル」だったと推定されています。弥生時代の前半は小さな銅鐸でしたが、後半ともなると1m前後の大きなものへと変わっていきましました。音を鳴らす銅鐸から見る銅鐸へと変化していったのです。

このような銅鐸ですが、ここ宇陀でも発見されています。時はかなり遡り、奈良時代のこととなります。『日本書紀』の次につくられた平安時代初期の歴史書、『続日本紀』には、和銅6（713）年に銅鐸発見のことが記録されています。この文献ではじめて「銅鐸」という名称が使われ、以降、

その名称が定着しました。『続日本紀』によると、宇陀郡の波坂郷の住人（役人）で、大初位上という位をもった村君東人が長岡野という所で銅鐸を発見し、朝廷に献上したとあります。この銅鐸の高さは約90cm、口径は約30cm。その形は変わっており、叩くと良い音がしたようです。

奈良時代の出来事であったため、残念ながらこの銅鐸は現存していませんが、大きな銅鐸が「波坂郷長岡野」の山中に埋められていたのでしょうか。銅鐸発見の場所については、諸説があり詳しいことはわかっていません。村君東人は、銅鐸を発見したからこそ、日本の歴史にその名を残すこととなりました。

